


- 2 . ICT のもたらすネガティブな社会的影響に関する調査研究

Research about the negative social influence that the ICT brings

 キーワード	ICT、ネガティブな社会的影響、負の影響
Key Word	ICT, Negative social influence, Negative influence

1. 調査の目的

ICT(情報通信技術)は生活の隅々にまで浸透して社会基盤を形成しつつあり、今後もますますより深く社会に根付いていくと考えられる。しかし同時に、ICT を用いた犯罪や個人情報の流出、文化やモラルの変容など、ネガティブな影響も顕在化してきている。

本調査研究では、現状において ICT のネガティブな影響だと認識されているものと、未だ顕在化していない将来の影響の双方について調査し、青少年や一般家庭、一般企業をネガティブな影響から守る社会システムの構築に向けた検討資料を作成するとともに、負の影響軽減に向けた技術の展開方向について提案することを目的とした。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査対象領域と調査項目

ネガティブな側面を以下の 6 つの影響領域に分類し、各領域について以下の 4 つの調査項目に基づき、有識者・業界団体のインタビュー調査を中心に、一部領域では小中学校生とその父母、及び高校・大学生のインタビュー調査も行った。

< 影響領域 >

- ・犯罪ツールとしての ICT、セキュリティを脅かす ICT
- ・精神的圧迫、心身にストレスをもたらす ICT
- ・文化、リテラシー、モラルを変容させる ICT
- ・社会的格差をもたらす ICT
- ・環境負荷を増大させる ICT
- ・プライバシーを脅かす ICT

< 調査項目 >

- ・ICT のもたらす負の影響
- ・負の影響への取組み / 活動状況
- ・負の影響に関する意識調査
- ・負の影響を回避 / 緩和する技術

(2) 主な成果

ICT のもたらす負の影響とその対策

影響領域別にまとめると、以下のとおり。

< 犯罪ツールとしての ICT、セキュリティを脅かす ICT >

ICT システムの利便性、即時性、匿名性等を逆用した犯罪が目立ち、特に子どもの場合は携帯電話による出会い系サイトのアクセスを起因として犯罪に巻き込まれやすい。携帯電話の持ち始め時期の教育が重要であり、フィルタリング技術については子供の成長に合わせて段階的に行う必要がある。また、セキュリティに関しては、対策の基本は本人認証と暗号化である。

< 精神的圧迫、心身にストレスをもたらす ICT >

ICT によるストレスは、“ICT 不安:操作の不慣れ”、“ICT 抑圧:迷惑メール除去”、“ICT 依存:オンラインゲーム”の三つに分けられる。抑圧の対策としては、オプトイン式の法的な採用のほか優れた選別ソ

フトの開発や正当な営業活動との識別が可能な仕組みが求められる。また依存の対策では、ゲームリテラシー教育などが挙げられる。

<文化、リテラシー、モラルを変容させる ICT>

文化面では文字情報の入力 became 容易になったため、漢字等の手書き能力の退化や手紙文化の衰退が危惧され、手書きによる文字の教育を義務教育の段階で徹底することや、より携帯可能な電子辞書の普及が求められる。モラル面ではブログ炎上や学校裏サイト等での誹謗中傷があり、トラブル防止策として、匿名掲示方式ではなく SNS 形式にする、スレッドをクラス単位ではなく具体的なトピックごとに設定することなどが考えられる。また、「ネットいじめ」に対しては「いじめ問題」そのものの研究とネット研究の接合が急務である。

<社会的格差をもたらす ICT>

我が国の社会的格差として、地域格差と企業・産業間格差を採り上げた。地域格差では、地理的条件でブロードバンドが整備されないことによる地域活性化や情報収集・発信の手段が限られることから、集落地、観光地など選択的・段階的な整備目標を提示して具体化していくことが求められる。また、企業・産業間格差では、ICT 投資効果が見えないことから投資に躊躇しているが、各企業や産業において、その存続のためにも、経営管理、受発注などあらゆる面で ICT の利活用は不可欠となってくる。ICT への投資コストとその効果を見極めつつ、システムやビジネスモデルの導入などを大胆に行うことが求められる。また、国としては、弱い立場の情報の受け手側にたった政策が求められる。

<環境負荷を増大させる ICT>

一般に ICT の進歩は移動行動の通信代替とペーパーレス化による紙資源消費の減少で環境負荷を軽減するとされるが、その定量的効果測定は困難であり、紙類の消費は増えたというような逆効果も指摘されている。一方で、機器の消費エネルギー等による地球温暖化と機器の破棄等による環境汚染の点で ICT は環境負荷を増大させるとも懸念されるようになった。その効果を評価するにはまず、対象項目の明確化し、ICT 以外で共有している部分を取り込み、ライフサイクルアセスメント(LCA)的思考あるいはそれを超える手法が重要になる。

<プライバシーを脅かす ICT>

近年は情報漏洩事故 1 件あたりの影響が深刻化している。また、公益目的によるプライバシー侵害の機会も増大しつつあり、安全とプライバシーとのバランスが難しくなっていて、技術的には監視技術等の進歩が著しい。プライバシー以外の個人利益(生命、身体、財産)も含めて保護するとき、どうしても他人のプライバシーは制約されることから、プライバシーはどこまで保護されるのか、議論を深めることが重要である。

提案

ICT の負の影響は多種多様であるが、「情報通信技術が誰でも安価に使えるようになった」ことが、今日の全ての問題の背景にある。ICT がもたらすネガティブな影響を緩和するために、重要と考える 5 項目の提案を行った。

- ・ICT のもたらす負の影響に関する実態を把握するための事例情報を収集し、科学的データベースを構築する
- ・ICT のもたらす負の影響を評価するための手法を開発し、評価研究を実施し、評価結果を公開するような産学官連携の学際的組織または機関を設ける
- ・小学校高学年段階で「ICT 社会」に関する倫理教育を含む ICT 教育を行う
- ・子どもの成長に合わせたフィルタリングに関する議論を展開し技術開発を推進する
- ・電子タグのプライバシー問題を解決し、環境負荷軽減のための活用を推進する